

<h1>HOMAS</h1> <p>日本語版 ニュースレター</p>	号 外 (最終号です) 平成 28 年 (2016 年) 4 月 11 日発行
	発行人 中垣 正史 E-mail mnakagaki@jcom.home.ne.jp

Hokkaido Massachusetts Society 北海道・マサチューセッツ協会

北海道・マサチューセッツ協会 役員・会員の皆様 平成 28 年 3 月 31 日

北海道・マサチューセッツ協会活動停止のお知らせ

北海道・マサチューセッツ協会は、1990 年(平成 2 年)2 月 7 日、北海道と米国マサチューセッツ州との姉妹提携を機に、民間の任意団体(榎原泰明会長)として発足しました。

姉妹交流訪問団の派遣・米国からの訪問団歓迎行事の国際交流活動を中心として、国際交流ランチセミナー、歴史探訪ツアーなどの会員親睦行事も継続実施してまいりました。

北海道近代化の歴史は、開拓使顧問ホーレス・ケブロンを始め、鉱山技師ベンジャミン・S・ライマン、札幌農学校教頭ウィリアム・S・クラーク、北海道畜産の父エドウィン・ダンなど 78 人の外国人(アメリカ人 48 人)の欧米の先進技術の指導によるものでした。

黒田清隆によって最初に招聘されたホーレス・ケブロンが米国マサチューセッツ州出身であったということは、北海道近代化の不思議な歴史の原点といえましょう。

1999 年(平成 11 年)、中垣正史が第 3 代事務局長となり、以来 17 年間、会員交流事業として、こういった歴史を学ぶ諸行事を展開してまいりました。

しかし昨年 7 月末から体調を崩し、肺炎をこじらせて約 5 か月間の長期入院生活となりました。なんとか危機を脱し回復はしたものの、今年 80 歳の高齢でもありこれまで通りの仕事復帰の見通しがたちません。今後の、北海道・マサチューセッツ協会活動の継続は困難と考えています。ニュースレター「HOMAS」も、75 号(平 27、7、31 発行)以後ストップした状態です。これまでの多面的な活動内容、また人件費等の面から考えても、他に事務局長職後継者を得ることは無理と考え、会長・副会長相談の結果、「北海道・マサチューセッツ協会」の活動停止も止むを得ないと考えに至りました。長年にわたり、当協会の活動に対するご参加・ご支援をいただきましたこと、感謝申し上げます。

このような事情により、本年 3 月をもって、北海道・マサチューセッツ協会道庁事務所の建物使用权の返還のため、専用電話の解約、電子機器類、スチール書籍戸棚・ロッカー・机・椅子類の廃棄→償却資産申告書税務署提出、書籍文書等の撤収搬出などの作業を現在進めています。

今後につきましては、会計監査も受けまして、予算残額については残務整理に使用したいと考えています。これまで、本協会の国際交流活動へのご理解ご支援をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本正夫
副会長 松江昭夫
事務局長 中垣正史

今後とも、日米の国際交流活動に参加ご希望の方は、ぜひ「北海道日米協会」の会員として継続されるようお願いします。

北海道日米協会 会長 伊藤 義郎
北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫

*(文書連絡先) 060-0004 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 札幌国際ビル 5 階 北海道日米協会

「北海道・マサチューセッツ協会」ホームページをご覧ください。これまでの活動記録・資料が保存されています。